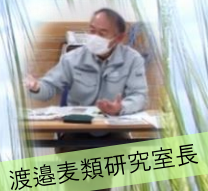




気候変動に強い！ 麦づくり研究



栃木県の主要農産物である「麦」の気候変動影響と、気候変動に適応する品種を研究開発し、安定多収な良質品種育成を目指す「栃木県農業試験場」の取り組みを紹介します。

栃木県の麦は、11月頃に種を播き、6月頃に収穫

11月
麦播



農業試験場

3月
莖立

4月
出穂

(4月中旬)

5月
登熟

6月
成熟 収穫



冬が暖かいと

気候変動により冬の気温が上がると、麦の生育が早まります。生育が進み、莖立が早まった状態で、寒の戻り等により低温にあたると、莖の中に隠れている幼穂の凍死や子実が稔らない不稔粒が発生するなどの**凍霜害**を受けます。



- 出穂5日前頃、
気温-1℃以下に、
3~4時間程度 ⇒ 不稔粒
- 出穂1か月前頃、
気温-2~-3℃以下 ⇒ 幼穂凍死



(左)凍死した幼穂
(右)正常な幼穂

春が暑いと

穂が出る4月中旬頃に気温が25℃以上になると、穂が稔らない**高温不稔**の発生リスクが高まります。



高温不稔



穂発芽した二条大麦

麦が登熟する5月中下旬に30℃以上の高温となり、さらに6月初旬に冷たい雨が降ると、畑で収穫前に穂から芽が出る**穂発芽**になるリスクが高まります。穂発芽すると、商品にはなりません。

全国に誇る育種技術で

適応する「麦」の品種開発

栃木県農業試験場では、「凍霜害リスクが下がる秋播性」や「穂発芽耐性」「高温不稔耐性」に関連する遺伝子解析を行い、品種の育成(育種)を行っています。育種は、交配をはじめから、新品種ができるまで最短でも12年以上かかります。

これまでに県が開発した優れた品種は全国で栽培され、日本の麦生産を支えています。これからも、気候変動に強く生産安定化に貢献できる品種の育成に、取り組んでいきます。



100年以上!
ビール大麦生産量!
日本一!



- ◆ 栃木県は、麦類(二条大麦、六条大麦、小麦、裸麦)の生産量全国第4位! 全国有数の麦作県です。
- ◆ 中でもビール用二条大麦は1917年以降、生産量“日本一”の座をほぼ毎年維持しています。

栃木県気候変動適応センター【事務局：栃木県環境森林部気候変動対策課 ☎028-623-3187】

その他、気候変動とその影響、気候変動影響による被害を回避・軽減するための適応策に関する情報はセンターHPを御覧ください (<https://www.pref.tochigi.lg.jp/d02/tochi-tekiou.html>)

